

ビワキジラミに対する有効薬剤

果樹試験場 研究員 松山 尚生

【要約】

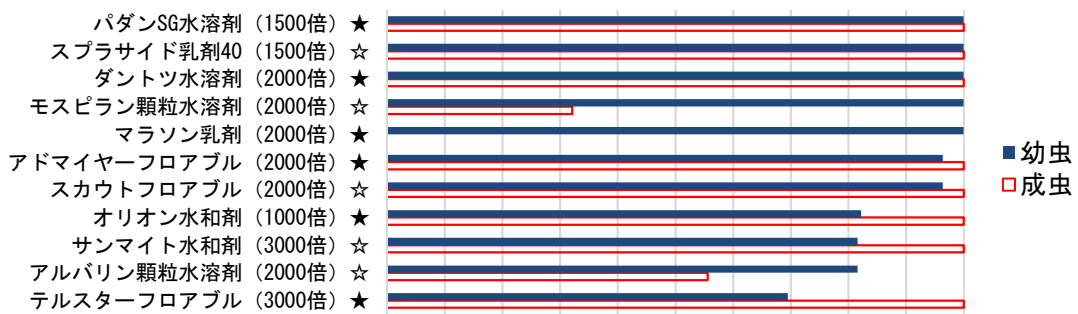
ビワの新害虫ビワキジラミに対し殺虫効果が高かった薬剤は、幼虫に対しては7剤、成虫に対しては8剤であった。また、現地ほ場試験で幼虫に対して防除効果が高かった薬剤は4剤であった。

【背景・ねらい】

ビワキジラミは2012年に国内で初めて発生が確認された新しいビワの害虫で、2018年に本県でも生息が確認された。本種の加害により激しいすす症状が発生し果実の商品価値が低下するが、本種に対する有効薬剤についての報告は少ないことから、防除対策に苦慮している。そこで、各種薬剤の殺虫効果を明らかにした。

【成果の内容・特徴】

- 1) 室内においてびわのビワキジラミまたは他害虫に適用がある薬剤を用いて殺虫効果試験を行った。幼虫に対しては10剤が効果が認められ、うち7剤は効果が高かった(図1)。成虫に対しては8剤が効果が高かった。
- 2) 幼虫に効果が認められた薬剤のうち、幼虫の発生が多い3月に使用可能な8剤を用いて、現地のビワ栽培ほ場で薬剤散布試験を実施した。ダントツ水溶剤、アドマイヤーフロアブル、マラソン乳剤、モスピラン顆粒水溶剤は防除効果が高かった(図2)。



補正死亡率 (%) 0 10 20 30 40 50 60 70 80 90 100
図1. ビワキジラミの幼虫および成虫に対する各種薬剤の殺虫効果 (2020、2021年)
※☆はビワキジラミに適用あり、★はびわの他害虫に適用あり

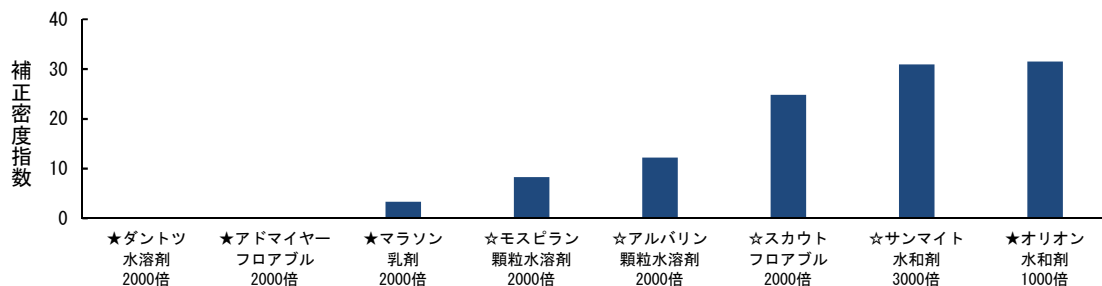


図2. ビワキジラミ幼虫に対する各種薬剤の防除効果 (2021年)
※☆はビワキジラミに適用あり、★はびわの他害虫に適用あり